

## 事務局に寄せられた御意見等一覧

	意見内容	問合せ方法
1	<p>1、齋藤分小学校の廃校は、教育の破壊、地域社会の破壊であり反対です。</p> <p>2、齋藤分小の廃校？に疑念抱く  私は、二谷小学校通学区域の住民で、齋藤分小のある齋藤分町に親戚や知人がいることから、坂を越えて度々訪ね、この町のことは知ってはいましたが、急坂で狭い道が交錯した地形になっていて、町全体を知るには至っていませんでした。  このような地形状況にある齋藤分小学校の廃校が問題になっていることを、昨年（2021）年12月に、「二谷小学校の建替えと齋藤分小学校の統廃合を考える会」を通じて知りました。  この事を知った時、このような地形にある貴重な学校を廃校にすることは人倫にもとる、してはならないと本能的に感じ、それを進めようとする動きに大いに疑念を抱いた事でした。  この経過や状況等を掌握することが先決と思い、前記「考える会」の会議に参加させて頂き、「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の第2回と第3回を傍聴しました。  同時に、学校の立地状況や学校を包摂する、他と違う地形や特徴を可能な限り正確に掌握することが肝要と考え、今年7月に、学校の立地状況を掌握するため周囲を3回ほど、4回目は中丸や六角橋を含めた通学域全体を歩いて廻りました。</p> <p>3、齋藤分小は、学び舎・地域の安寧・オアシス  この学校の通学域で最も人口の多い齋藤分町は、既述の且つアップダウンの多い地形ですが、公園や広場などほとんど無く、学校が唯一のゆとりある空間と言って良く、住民の集いや憩い、防災等の避難所として貴重なオアシスのような空間であることが分かります。  この学校が地域から切り離すことができない存在になっていることは、齋藤分小学校区住民アンケートや検討部会における委員等の訴え（学校存続）に良く現れてもいます。  また、齋藤分小学校の令和4（2022）年4月の新1年生は44人で、22人ずつの2学級になり、同校の一般学級児童数・学級数ともに漸増傾向（検討ニュース第1号2p）にあるにもかかわらず、これを廃校にすること自体に問題あるとも言えます。</p> <p>4、「基本方針」は見直しすべきです  この齋藤分小学校の問題（廃校か否か）は、平成29年5月に策定された「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」（検討部会ニュース第2号）に拠っているようですが、この方針は、「厳しい財政状況」</p>	Eメール

	<p>を前提にして、その財政のために近接の小規模校を廃校にすることが半ば義務的な記述になっています。</p> <p>まさに、斎藤分小学校の廃校問題、財政のひっ迫のために行政（横浜市）はそうしなければならなくなった、つまり、財政のひっ迫理由で、小規模校である斎藤分小学校の廃校問題が引き起こされているということです。</p> <p>5、巨大再開発の見直しによる財政のバランスをとり戻すこと</p> <p>横浜市の財政等の使い方に関して、本件斎藤分小学校廃校の動きに見られるように教育費を切り詰め、都市再開発等では真逆の動きにあることを明らかにする必要があります。</p> <p>市は、国等とも連携して、大手デベロッパー等への補助金や助成金、税の優遇措置などを謳った特別法を使って巨大再開発（超高層ビルなど）を次々に都心臨海部中心に進めています。これらに財政がどのように注がれているか不透明になっています。</p> <p>これらに関する内容は、次の意見書にのせて提出したいと思っています。</p> <p>6、結び</p> <p>いずれにしても、老朽化による二谷小学校の建替えにともなう斎藤分小学校を廃校にすべきではなく、むしろ充実を図るべきことを申し述べて意見書とします。</p>	
2	<p>一昨年、菅田小学校と池上小学校が統合しました。今回、私の居住地の斎藤分小学校と二谷小学校の統合について考えてみました。</p> <p>今、日本の教育面は世界に比して低い水準にランク付されています。教育は人間を育てる大切な役割を担っています。一人ひとりの人間に目を向け、人間同士の関わりにしっかり目を向けるためには、少人数の学び舎が必要だと考えます。</p> <p>斎藤分小を存続させ、箱物づくりの観点を脱却し、教育の観点からしっかり見つめ直して「横浜らしさ」を目指した学校づくりを実現させようではありませんか。</p> <p>横浜の地から小規模校の良さを発信してほしいと切望しています。</p>	手紙

	意見内容	問合せ方法
3	<p>①「統廃合ありき」のアンフェアな議論・論調を禁じ得ない  検討部会ニュースやホームページに掲載される資料等の内容がほぼほぼ統廃合ありきで進められているように映り、行政の仕事としてアンフェア、不適切極まりない。それら資料を拝見すれば、地域や保護者のみなさんから反対意見が多く並んでいるのに、学校計画課の説明は統廃合に向けたメリットばかりを強調したり、根拠のない反論ばかりを並べる書き方になっている。まずもって、二谷小学校の北隅・二階建ての小さな校舎が築70年を経過するというだけで、近隣の斎藤分小も巻き込んで統廃合させようと動き自体がミスリードであると言わざるを得ない。コンクリート製校舎の法定耐用年数は60年とされているが、これは老朽化ではなく、単なる減価償却の期間に過ぎない。むしろ文科省は、10年以上前（ただし震災後）から、校舎の建替よりも「長寿化」を推奨している（文科省「学校施設老朽化対策ビジョン」など）。つまり、文科省は耐震工事などの補修・改良工事を行えば、校舎は80～100年も持続可能であり、校舎の「長寿化」により、全国の学校校舎の建替にかかる38兆円の費用が8兆円減の30兆円にまで減らすことができるとまで述べている。したがって、二谷小学校の旧い一校舎を根拠にした建替の方針、そして建替ありきで「長寿化」しないという今回の横浜市教委学校計画課の提案は、国（文科省）の基本方針・原則に反した時代錯誤の税金の使い方というべきであり、ましてや、これを機に他校との統廃合を目論むなど、そもそもが筋違いの主張だということになる。</p> <p>②公正かつ公平な根拠を十分に示してほしい  学校計画課より提示される説明・議論がアンフェアに映るのは、印象論だけを並べた統廃合ありきの内容だからである。たとえば、これまでの統合例の住民や児童の意識を示すにしても、誰が誰を対象にどれだけの割合でそう思っているか、考えているか、その調査の方法も含めて、数値(%等)で示してほしい。公務員なら、一度は根拠に基づく政策EBPM(Evidence Based Policy Making)という言葉を目にしたことがあるだろうが、それと照らし合わせて、一連の資料はそれに程遠い内容であると言わざるを得ない。残念なことに、Evidence Based どころかKKO(勘と経験と思いつき)による最悪の議論・説明の羅列でしかない。その反面、学校規模が大きくなり、児童数が増えた結果、一人当たりの校地・校庭面積は小さくなり、窮屈な学校生活を送らざるを得なくなっているし、新統合校でも同様の問題が発生するだろう（後述④）。こうしたデメリットはほとんど提示せずに、統合校=児童数増のメリットばかりを強調するやり方こそアンフェアである。横浜市以外の都市部の学校の事例なども踏まえて、きちんと公正・公平に資料を集めて、提示してほしい。それが住民からの税金を原資に給料(横浜市職員は全国的にも高額)をもらっている公務員の職務ではないのか。</p>	Eメール

③二谷小学校の建替工事とその期間中の影響は？

両校の統廃合を知って、他学区に転居した方もいらっしゃると思うが、校舎の「長寿化」をめざす国（文科省）の方針に反して、二谷小学校の校舎・校庭の建替工事を行った場合、その期間中の二谷小学校の学校（児童・教職員）や周辺地域への影響が心配される。まず、工事中の騒音・粉塵（ほこり）の問題は、どれだけ注意しても避けられないだろう。突貫など最も大きな騒音の出る工事は長期休業中に行うだろうが、十分に気をつけていても、周辺地域への騒音等の影響、学期中の工事でも騒音問題は避けられない。校舎・運動場の建替工事中に、運動場にはプレハブ校舎が設置されたり資材置場になったり、トラックや重機などの大型車両が出入りすることもあるだろう。そのなかで、運動場を使用する体育の授業や運動会などの学校行事などは、まともに行われまいだろう。二谷小の校庭でしばしば見かける学童野球もしばらくは困難だろう。その工事期間中の対案として提示された「県立」工業高校・総合高校は「市立」小学校に運動場やプール等の施設を貸してくれるのか、貸してもらっても、高校生用のプールは小学生用と比べて縦横が大きく、水深があり、小学生（特に低学年児）には危険極まりないものである。民間のスイミングスクールでは、この点に相当に気をつけてプールの管理等をしているのに、多忙な小学校教職員が他校ましてや高校のプールまで十分な管理ができるのだろうか。プールで事故が起きたときの責任の所在は神奈川県なのか横浜市なのか、そこまで詰めた議論をしているのだろうか。統廃合に前のめりになっているあまり、こうした重要なリスクには注目しないことが横浜市教育委員会学校施設課より提示された論点の盲点なのである。

④二谷小・斎藤分小にお子さまを通わせる（予定も含む）保護者のみなさんへ

以上を見れば明らかなように、今回の両校の統廃合案がどれだけいい加減な内容であるかがおわかりいただけたかと思います。

それでも横浜市が強引にこの統廃合計画を強行し、令和10年度（2028年4月）に新統合校の誕生を目指すとなれば、令和7（2025）年度～令和9（2027）年度にかけて、二谷小学校の建替工事が行われます。すると、2013（平成25）年4月2日～2021（令和3）年4月1日生まれの二谷小学校の児童は、少なくとも1年間は工事中の二谷小学校に通うこととなります。なかでも、2015（平成27）年4月2日～2019（平成31）年4月1日生まれの児童は、小学校生活6年間のうち、その半分の3年間を工事期間のなかで過ごすこととなります。新統合校の誕生後も、文科省が定める基準を大幅に下回る狭い運動場で、約600名弱の多くの児童が体育や業間休み（遊び等）を強いられることとなります。文科省が定める児童数241名～700名の小学校の運動場の広さの基準は「 $2400 + 10 \times (\text{児童数} - 240)$ 」(平方メートル)で求められます。仮に新統合校の児童数を600名として計算すると、新統合校では6,000平方メートルの運動場

	<p>が必要になります。ところが、学校計画課の説明(第3回検討ニュースの10ページ)では、「二谷小学校の場合で最大で3100平方メートルになると思っています」などと悪びれる様子もなく書かれています。新統合校の運動場「最大3100平方メートル」は国が定める小学校の校庭の広さ基準の半分程度しかありません。想像してみてください、狭い校庭で、お子さまが押し合いへし合いを強いられる学校生活を。現に、横浜市では、このような基準以下の小学校が統廃合や人口急増を伴いながら、「量産」されています。そもそも二谷小学校の旧いひとつの校舎を建て替えるところから、横浜市教委事務局学校計画課は他校との統廃合も含めたあれもこれも横暴を通して、学校規模の適正化どころか統合によって「不適正」規模の小学校をつくらうとしているのです。両小学校の保護者や地域住民のみなさんは「本当にそれでいいのか」「お子さんにとってより良い教育環境」をしっかりと考えて、反対の声をあげて参りましょう。</p>	
4	<p>現総理の岸田首相が今までにない規模の少子化対策を講じると主張して様々な少子化対策を講じている(不妊治療や高校生までの保険料無料化など保険対象を広げる、中学校給食無料化、高校授業料無料化など)中、斎藤分小学校の統合はその流れに反していると強く感じます。私自身、斎藤分小学校の統合に反対です。</p> <p>日本国としては、人口減少幅が激しくなる中、国としては子供を増やし、少しでも人口減少に歯止めをかけようと、様々な対策を講じる中、横浜市の方針が国の方針と異なり、むしろ逆の方向に動こうとしている実情は非常に違和感を覚えます。横浜市はむしろ、どうしたら斎藤分小学校の児童が増えていくか考えてそこにお金(税金)を投じて、子育てのしやすい、環境の地域を作ることに入力していただきたいです。</p> <p>掲題のニュースにもありましたが、斎藤分小学校の地域は東横線沿いにあり、子育て世代が住みやすい、子育てに力を入れている横浜市であれば、児童数が減っていくこともなく、むしろ増えて、地域、社会、経済の好循環が生まれると思います。</p> <p>子育て世代の声に耳を傾けて頂き横浜市を神奈川区を斎藤分をより一層子育てしやすい街に、子育て世代が不安なく、新しい人も越してこれる、今まで住んでいる人もずっと住みたいと思える地域にして頂きたいです。</p>	Eメール

《次頁あり》

	意見内容	問合せ方法
5	<p>齋藤分小学校の存続を以下の理由から希望します。</p> <p>1. 地域の活性化  齋藤分小学校があることでその小学校の場所を中心に地域が活性化されます。現在でも地域の方とグランドゴルフをしたり、小学校と地域の方との交流イベントがあり、通学時には近所の方とあいさつを交わし齋藤分小ならではの温かい交流があります。</p> <p>2. 通学距離の配慮  神大寺方面など、二谷小学校までの距離が遠すぎて危ない、小学校低学年の足だと30～40分はかかります。安全面でも遠くなり危ないです。(特に秋、冬などの季節)</p> <p>3. 小規模小学校の維持  小規模学校ならではの、きめ細やかな個々の児童へのケアがあり、全校生徒名前を覚え、1～6年まで仲の良い学校です。</p> <p>4. 少子化への対応  日本国内で少子化が進んでおり、国や様々な自治体で高校教育や大学教育の無償化、出産一時金の増加などの動きがあり、子育てをしやすい社会にして子供を増やそうという動きが加速する中、これだけ齋藤分小学校統合の反対意見が保護者や地域から上がっているのに、それを無視して統合に向かうというのは、国や自治体の少子化への対応と逆行する動きで、地域の保護者や、地域の方の意見を汲み、子供を育てやすい環境を整えていく事が自治体の使命だと思います。齋藤分小学校の存続のご検討のほど、引続きどうぞ宜しくお願い致します。</p> <p>追記</p> <p>I 防災拠点として必要  齋藤分小学校、栗田谷中学校は坂道やアップダウンが多く、地震があった際、齋藤分小学校が必要。</p> <p>II 児童の増加  1月からも、新しい児童が転入してきており、児童が減っているということはなくむしろ増えており、学校は必要です。</p>	Eメール

《次頁あり》

	意見内容	問合せ方法
6	<p>「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討について意見を申し上げます。</p> <p>小学校の統合についてですが、私は賛成になります。理由は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス替えがないため、クラスに合わなかった場合、転校や不登校になる。</li> </ul> <p>実際に、友達との軋轢でクラスに合わないのが理由で転校してしまったり、いじめのようなことがあり不登校になった子が複数いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に先生が1人しかいない</li> </ul> <p>先生に余裕がなく、先生と合わない場合に相談が全くできません。上記と重なりますが、逃げ場がないので転校か不登校になるしかありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめが起きやすい</li> </ul> <p>ずっと同じメンバーなのでちょっとしたきっかけでいじめが起き、逃げ場がない。</p>	Eメール